

NEWS Letter

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニューズレター No. 96 —目次—

| | |
|---|----|
| 1. 第 39 回（2016 年度）地域安全学会研究発表会（秋季） 開催要領 | 1 |
| 2. 第 39 回（2016 年度）地域安全学会研究発表会（秋季） 一般論文募集 | 3 |
| 3. 地域安全学会論文集 No.30（電子ジャーナル）の募集と 投稿方法 | 8 |
| 4. 総会等報告 | |
| (1) 2016 年度地域安全学会総会 報告 | 10 |
| (2) 2015 年地域安全学会論文賞・年間優秀論文賞・論文奨 励賞の授与式 | 23 |
| (3) 第 38 回地域安全学会研究発表会（春季）における優秀 発表賞について | 25 |
| 5. 第 39 回（2016 年度）研究発表会（秋季）査読論文の審査 状況報告 | 27 |
| 6. 寄稿 | 28 |
| 記録する－災害報道における記者の仕事 川西勝（読売新聞） | |



地域安全学会ニューズレター
ISSS News Letter

No. 96
2016. 8

1. 第39回（2016年度）地域安全学会研究発表会（秋季）開催要領

第39回（2016年度）地域安全学会研究発表会（秋季）を、「静岡県地震防災センター」において、下記の要領で開催いたします。

地域の安全、安心、防災に関心のある多くの方々の参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。奮ってご参加下さい。

(1) 研究発表会

■日時：平成28年11月4日（金）～11月5日（土）

■場所：静岡県地震防災センター
〒420-0042 静岡市葵区駒形通り 5-9-1
TEL：054-251-7100
<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/center/access.htm>



□徒歩：県庁またはJR静岡駅より、徒歩約25分（約2キロメートル）

□バス利用：JR静岡駅下車、静鉄バス「静岡駅前7番乗り場」中部国道線「本通十丁目」下車徒歩3分、「静岡駅前11番乗り場」西部循環駒形回り線「駒形五丁目」で下車、徒歩2分

□車利用：東名静岡インターを降り、「インター通り」を北進、国道1号の交差点を右折、2つ目の信号「清閑町」交差点を左折し、「しあわせ通り」を左側

■スケジュール

- | | | |
|-------------|-------------|---|
| (1)11月4日（金） | 11:50～ | 受付開始（静岡県地震防災センター2F） （ポスター発表登録、 <u>展示作業は12:00開始</u> ） |
| | 12:20～12:30 | 開会あいさつ |
| | 12:30～17:00 | 査読論文発表 |
| | 17:00～17:15 | 臨時総会 |
| (2)11月5日（土） | 9:00～ | 受付開始（静岡県地震防災センター2F） （ポスター発表登録、 <u>展示作業は9:40開始</u> ） |
| | 9:30～12:00 | 査読論文発表 |
| | 12:00～14:15 | 昼休み & 一般論文発表（ポスターセッション） （コアタイム：12:45～14:15） |
| | 14:15～16:45 | 査読論文発表 |
| | 18:00～ | 懇親会（論文奨励賞の審査結果を発表します） |

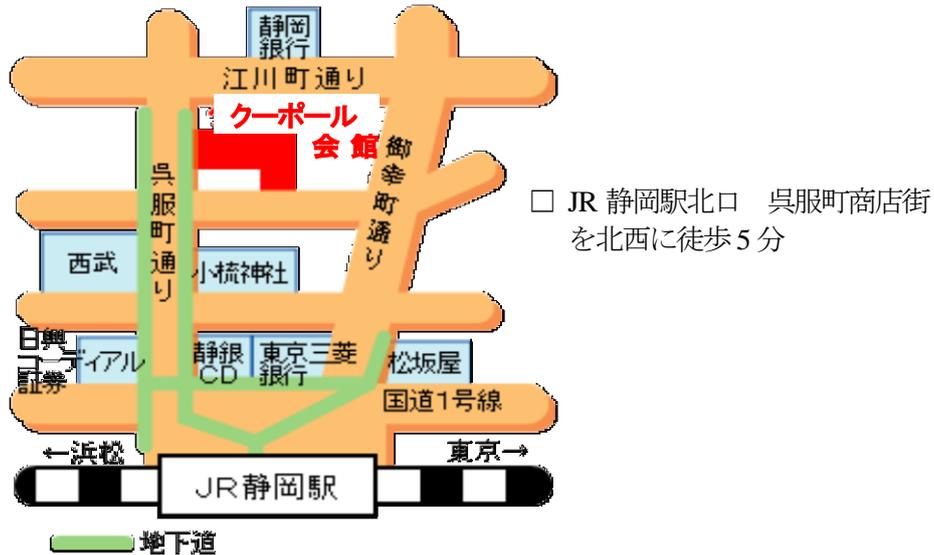
■参加費：無料（ただし梗概集、論文集は有料）

| | 梗概集 Proceedings | 論文集 Journal |
|---------------------|---------------------------|---------------------------|
| 会員・会員外 | 4,000 円／冊 | 4,000 円／冊 |
| 査読論文発表者 (筆頭著者のみ) | 4,000 円／冊 | 1 冊進呈 (追加購入；4,000 円／冊) |
| 一般論文発表者 (筆頭著者のみ) | 1 冊進呈 (追加購入；4,000 円／冊) | 4,000 円／冊 |

(2) 懇親会

■日時：平成28年11月5日（土）
18：00～ 20：00

■場所：クーポール会館
〒420-0852 静岡市紺屋町2-2
TEL：054-254-0251



■参加費：一般7,500 円（予定）、学生2,500 円

2. 第39回(2016年度)地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文募集

(1) 投稿要領

地域安全学会 秋季研究発表会実行委員会

会員各位におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第39回(2016年度)地域安全学会研究発表会(秋季)を下記の通り開催いたします。昨年度に引き続き今年度も、一般論文の発表形式が**ポスター発表のみ**となっております。なお、**Eメールによる事前登録が必要**です。また**投稿論文はPDFファイルに変換し、Eメールで投稿する形式となっております**。ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。

I. 開催日時・場所

- (1) 日時：平成28年11月4日(金)～5日(土)
一般論文の発表は11月4日(金)、5日(土)(4日は午後、5日は昼休みを挟んだ前後の時間帯となる予定)です。
- (2) 場所：静岡県地震防災センター
静岡市葵区駒形通5-9-1(JR静岡駅より徒歩25分)

II. 投稿方法

論文を投稿するには、**Eメールによる登録を行っていただく必要があります。発表形式は「ポスター発表」のみです。**

II-1. Eメールによる登録

- (1) 登録期限：平成28年9月16日(金)
- (2) 宛先：ippan-aki@issss.info
- (3) 登録内容、書式：
 - 1行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。
 - 2行目 論文題目
 - 3行目 筆頭著者氏名
 - 4行目 筆頭著者所属
 - 5行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)
 - 6行目 筆頭著者Eメールアドレス
 - 7行目 筆頭著者電話番号
 - 8行目 筆頭著者ファックス番号
 - 9行目 連名著者がいない場合は論文概要(250字以内)、いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、論文概要(250字以内)注)発表者がわかるように氏名に○をつけてください。
- (4) その他：
 - (a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、次号の「ニューズレターNo.93」および学会ホームページに掲載する。
 - (b) 発表は一人一論文のみ
 - (c) 登録完了後、事務局より受付番号の入った登録受理メールをお送りします。

II-2. 本文の送付

- (1) 送付期限：平成28年9月30日(金)
- (2) 論文形式：
 - (a) 次ページに掲載してある投稿形式参照。なお、当学会のホームページ(www.issss.info)に掲載のMS-Wordテンプレートをダウンロードの上、利用可能。

- (b) A4版、4ページ以内。PDFファイルに変換したものを投稿してください。投稿されたPDFファイルを白黒出力し印刷します。
- (3) 送付先
 - (a) E-mail: ippan-aki@issss.info
(PDFファイルをe-mailにて送付してください)
- (4) 本文送付時のメールの書式：
 - 1行目 「優秀発表賞に応募します」あるいは「優秀発表賞に応募しません」というどちらかを明記ください。
*「優秀発表賞」については、本投稿要領の「V. 優秀発表賞の事前応募登録」をお読みください。
 - 2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号
 - 3行目 筆頭著者(=優秀発表賞の応募登録者)の氏名
 - 4行目 筆頭著者所属

III. 投稿料の納入

- (1) 投稿料：10,000円(4ページ以内厳守)
- (2) 投稿料の納入方法
 - ① 期限：平成28年9月30日(金)までに②宛てに振り込んでください。
 - ② 振込先：
銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店(店番号725)
口座名：一般社団法人地域安全学会 秋季研究発表会口座
口座種別・番号：普通預金 1745849
振込者名：筆頭著者氏名
 - ③ その他：振り込みの際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。
 - ④ 注意：法人化に伴い昨年以前と口座が変わっています。また、査読論文の登載料振り込み口座とは異なりますのでご注意ください。

IV. ポスター発表の設置等

- (1) ポスターの内容：
 - 著者の所属・氏名、発表の目的、内容、結論をコンパクトに記述のこと。与えられた大きさの中で、視覚に訴えるよう多色使いとし、図表、写真等を自由に使ってください。
- (2) パネルの大きさ等：
 - 1論文に対し、パネル1枚(横90cm×縦180cmのベニヤ板)を提供。掲示のための画鋲やセロテープは、各自持参のこと(取り

外しを考慮すると画紙が最適)

(3) 部屋およびポスターの設営期間、発表、撤去

部屋、設営期間、発表スケジュール、撤去については後日、学会ホームページにて連絡いたします。

なお、ポスター発表会場ではパソコンによるプレゼンテーションのための机を用意することは可能であるが、電源の制約があります。

V. 優秀発表賞の事前応募登録 (地域安全学会 表彰委員会)

地域安全学会では、平成 24 年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表 (口頭発表・ポスター発表) を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる平成 28 年 11 月に実施される第 39 回 (2016 年度) 地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いいたします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

・論文本文送付時に情報を記載する。詳しい方法については、「II. 投稿方法」の「II-2. 本文の送付」の「(4) 本文送付時のメールの書式」を参照してください。

■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

- ・授賞対象：
「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会 (春季・秋季) での一般論文の研究発表 (口頭発表・ポスター発表) の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある 40 歳 (当該年度 4 月 1 日時点) 未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。
- ・授賞件数：若干名 (当日の選考結果発表会に出席できる者)
- ・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：大会当日の懇親会で発表する

(2) 投稿規程

一般論文投稿規程

平成21年7月
地域安全学会 研究発表会実行委員会

1. 一般論文投稿分野

地域社会の安全問題、解決策についての横断的な幅広い分野の研究・技術・実務などを論ずるもの、あるいは具体的な提言に関するもの。

2. 投稿者

論文の筆頭著者は、地域安全学会会員に限り、研究発表会において発表し、かつ討議に参加しなければならない。

3. 投稿先

地域安全学会研究発表会実行委員会の宛先とする。

4. 発表方法

一般論文の発表方法は「口頭発表」または「ポスター発表」による。筆頭著者（発表者）1人につき、1演題に限るものとする。

5. 投稿手続き

5-1投稿期限：投稿期限は、地域安全学会研究発表会に先だって会告する。

5-2投稿原稿の内容：投稿原稿は、1編で完結したものとし、同一テーマのものとのシリーズ発表は受け付けない。また、秋の研究発表会については、同一会期内で開催される研究発表会で発表する査読論文とは異なるものとする。

5-3使用言語：投稿論文に使用可能な言語は、和文または英文でなければならない。

5-4提出原稿の様式：投稿者は、期日までに「地域安全学会梗概集」に登載するための「印刷用オリジナル原稿」を地域安全学会研究発表会実行委員会事務局まで提出しなければならない。提出原稿は、「一般論文投稿形式」によるものとし、図・表・写真を含め、PDFファイルで提出するものとする。PDFファイルを白黒出力したものを印刷用の版下原稿とする。

6. 著作権

6-1 著者は掲載された論文等の「著作権」を本会に委託する。

6-2 著者が自らの用途のために自分の掲載論文等を使用することについて制限はない。なお、論文等をそのまま他の著作物に転載する場合にはその旨を明記する。

6-3 掲載された論文等の編集著作権、出版権は本会に帰属する。

6-4 第三者から本会に対して、論文等の翻訳、図表の転載の許諾要請があった場合、著者に通知し許諾を求める。ただし既に本会会員として所属せず、連絡不能な場合はこの限りでない。

6-5 著者は、本会または本会が許諾した者の利用に伴う変形については「同一性保持権」を行使しないものとする。

6-6 論文等の内容が第三者の著作権を侵害するなど、第三者に損害を与えた場合は著者がその責を負う。

6-7 論文等の著作権の使用に関して本会に対価の支払いがあった場合は、本会会計に繰り入れて、学会活動に有効に活用する。

(3) 執筆要領と投稿形式

地域安全学会講演概要集の執筆要領と和文原稿作成例 Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Proceedings of Social Safety Science

地域 太郎¹, ○安全 花子²
Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Proceedings of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Key Words : Times New Roman, italic, 9 point font, 3 to 6 words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

1. レイアウト

(1) マージン等

- ・上下 : 各 20mm, 左右 : 各 20mm
- ・二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

- ・題目 : 和文はゴシック 14pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者名 : 和文は明朝 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者所属 : 和文は明朝 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
- ・アブストラクト : 英文 Times New Roman 9pt, 左揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・キーワード : Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語, 2 行以内, 左右各 30mm のマージン.
“Key Words” はボールドイタリック体.
- ・本文 : 明朝 9pt, 行替えの場合は 1 字下げ.
一章の見出し : ゴシック 10pt, 左寄せ
一節, 項の見出し : ゴシック 9pt, 左寄せ
一図, 表, 写真のキャプション : ゴシック 9pt, 中央揃え
- ・補注, 参考文献の指示 : 明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが, 各学問分野の慣例に従っても構いません.
- ・補注(必要な場合) : “補注” はゴシック 10pt, 左寄せ, 補注自体は, 明朝 8pt.
- ・参考文献 : “参考文献” はゴシック 10pt, 左寄せ. 参考文献自体は, 明朝 8pt.

(3) 行数および字数

二段組みとし, 一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字, 行間隔は 4.3mm で, 1 ページ当り 60 行を標準として下さい. したがって, 文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります.

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて, 最大 4 ページの偶数ページとして下さい.

2. 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は, 本文が和文であることを前提として作成した本「執筆要領」に準拠して下さい. しかし, 英文の場合は, 和文のタイトル, 著者名, 所属は不要です.

本文のフォントは, Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい.

3. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会講演概要集」は, 定められた期日までに, 印刷用オリジナル原稿を提出していただきます.

印刷用オリジナル原稿とは, 印刷・出版用の高度なタイプライターもしくはコンピューターシステムを用いて作成され, そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します.

4. 著作権と著者の責任

「地域安全学会講演概要集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し, 原稿の内容については著者が責任を持つこととなります. したがって, 印刷後発見された誤植や内容の変更はできません. 誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は, 著者の責任において, 文書で, 当該論文が登載されている「地域安全学会講演概要集」所有者に周知して下さい.

(4) 地域安全学会研究発表会における「技術賞」の応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成20年度から、「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象として「技術賞」を創設し、表彰を行っています。平成25年度から、広く会員への周知を図るとともに、一般論文投稿時に筆頭著者から応募登録を受け付けることで審査対象を広げ、別途応募書類を作成する事なく一次選考対象に加えることにしています。

なお、この応募登録の有無にかかわらず、従来通り10月に改めて技術賞候補の推薦を公募した際に申請書類を提出していただいて、新たな成果を追加し再応募することも可能です。審査会は、今年度のすべての応募を対象に年一回行われます。

同じく一般論文を対象とした「優秀発表賞」とは審査の視点や対象が異なるため、重複応募登録は妨げません。奮って応募していただくようお願いします。

■研究発表会(秋季)における「技術賞」応募登録の方法は以下の要領でお願いします。

論文本文送付時に、論文を送付したメールとは別便のメールで以下の情報を記載して下さい。

(1) 登録期限：一般論文の本文送付期限と同じ

(2) 宛先：一般論文の送付先メールアドレスと同じ： ippan-aki@isss.info

(3) 応募登録内容、書式：

・メール本文に以下の情報を記載する。

1行目 「技術賞に応募します」と入力してください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

(以下の①～⑤についてそれぞれ400字以内で述べてください。該当しない項目は、「該当なし」と記載願います)

3行目 当該技術の「①実績・開発期間」

4行目 当該技術の「②有用性・実用性」

5行目 当該技術の「③革新性・新規性」

6行目 当該技術の「④一般性・汎用性」

7行目 当該技術の「⑤将来性・展開性」

8行目 筆頭著者（＝技術賞の応募登録者）の氏名

9行目 筆頭著者の所属

10行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）

(自宅以外の場合は、所属部課名、研究科／専攻名、研究室名などを最後まで正確に記載)

11行目 筆頭著者のE-メールアドレス

■研究発表会(秋季)の査読論文、並びに電子ジャーナル論文投稿時における、著者からの「技術賞」応募登録制度はありませんが、学術委員会による推薦制度が設けられています。

3. 地域安全学会論文集 No. 30（電子ジャーナル）の募集と投稿方法

平成 28 年 7 月
地域安全学会 学術委員会

地域安全学会では研究発表会（秋季）論文に加えて、電子ジャーナル論文の募集を実施しております。2016 年度も「地域安全学会論文集 No. 30（電子ジャーナル）」を募集することになりました。本電子ジャーナル査読論文については、平成 28 年 9 月 2 日（金）正午 12:00 までの期間内に、地域安全学会の Web サイトから、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

会員各位の積極的な電子ジャーナル査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文申込と査読用論文原稿の投稿期間(Web サイトからの投稿)
平成 28 年 7 月 25 日（月）～平成 28 年 9 月 2 日（金）正午 12 時（時間厳守）
- (2) 第一次査読結果の通知
平成 28 年 11 月 11 日（金）頃
- (3) 修正原稿の提出期限（メールによる投稿）
平成 29 年 1 月 13 日（金）正午 12:00（時間厳守）
- (4) 第二次査読結果の通知
平成 29 年 1 月 27 日（金）頃
- (5) 再修正原稿の提出期限（メールによる投稿）
平成 29 年 2 月 24 日（金）正午 12:00（時間厳守）
- (6) 「地域安全学会論文集 No. 30」への登載可否の通知
平成 29 年 3 月 3 日（木）頃
- (7) 登載決定後の最終原稿の提出期限（メールによる投稿および白黒原稿の郵送）
平成 29 年 3 月 17 日（金）正午 12:00（時間厳守）
- (8) 「地域安全学会論文集 No. 30」をホームページ上で電子ジャーナル論文として発行
平成 29 年 3 月 24 日（金）
- (9) 「地域安全学会論文集 No. 30」を再録、印刷
平成 29 年 11 月初旬～中旬 ※平成 29 年度地域安全学会研究発表会時。

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円／編
- (2) 査読料の納入方法
 - ①期 限：平成 28 年 9 月 3 日（土）までに、②宛てに振り込んで下さい。
 - ②振込先：
りそな銀行 市ヶ谷支店
口 座 名：一般社団法人地域安全学会 査読論文口座
口座種別：普通口座
口座番号：1745807
振込者名：受付番号＋筆頭著者（例：2015-000 チイキタロウ）
 - ③その他：査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

3. 登載料の納入

- (1) 登載料（CD-ROM 版論文集 1 枚＋冊子体論文集 1 冊を含む）
6 ページは 2 万円／編、10 頁を限度とする偶数頁の増頁については、5 千円／2 頁。
- (2) 登載料の納入方法
平成 29 年 3 月 20 日（月）までに、上記 2. (2)-②の振込先に振込んで下さい。

4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切りに際して投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、受付ができなくなる恐れがあります。締切りに際しての投稿は極力避けていただくようお願いいたします。
- (2) 論文申込にかかる Web サイトの概略（詳細はサイトの指示に従って入力して下さい）
 - ・申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。

- ・論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250文字程度)を入力する。
 - ・その内容を確認し、必要があれば修正する。
 - ・原稿ファイル(PDF形式のみ)を指定し、送信する。
 - ・投稿が完了すると、投稿完了の自動返答メールが届きます。事務局で受付が完了すると受付番号がメールで通知されます。投稿期限前であれば修正原稿を受け付けますので、修正内容を記載の上、受付メールアドレス(e-journal@iss. info)にご連絡ください。
 - ・査読結果は申込者の連絡先に送付されますので、確実に受信できるメールアドレスを指定ください。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ (<http://www.iss. info>) にありますので、必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意ください。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の投稿は原則として受理できません。
- (5) Web上の電子ジャーナル論文と、冊子体論文集に添付される「CD-ROM版論文集」には、登載決定後にメールにて提出いただいた原稿ファイル(PDF形式)に、ページ番号を追加して収録しますので、カラー図版に関する制限はありません。
- (6) 「冊子体論文集」は、原稿ファイル(PDF形式)の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文1編あたり2名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼をe-mailで送信いたします。地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

4.総会等報告

(1) 2016年度地域安全学会総会 報告

1) 2015年度事業報告

① 理事会の開催

2015年度は理事会を下記のとおり開催した。

第1回 2015年 5月29日(金) (東京)、第2回 2015年7月25日(土) (東京)

第3回 2015年9月19日(土) (東京) 第4回 2015年11月13日(金) (静岡)

第5回 2016年1月23日(土) (東京) 第6回 2016年3月2日(土) (東京)

② 総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催した。

日時：2015年5月29日(金)～30日(土)

場所：大島町開発総合センター

i. 一般論文発表：5月29日(金) 13:30-16:30、57件

ii. 2015年度地域安全学会総会：5月29日(金) 16:45～18:15

iii. 公開シンポジウム「台風26号土砂災害からの復興島づくり」：5月30日(土) 10:00～12:00

基調講演：宮下加奈((社)減災・復興支援機構) 「三宅島の全島避難と島の復興」

コーディネーター：中林一樹(明治大学)

パネラー：大島町土砂災害復興推進室長、大島支庁土砂災害対策課長
(一社)大島観光協会長 白井岩仁氏、ホテル椿園 清水勝子氏

iv. 現地見学会：5月30日(土) 12:30～15:00

台風26号水害地域の土砂災害対策とまちの再建状況の視察

③ 東日本大震災連続ワークショップ2015 in 気仙沼

下記の企画を実施した。

日時：2015年10月3日(土)～4日(日)

場所：気仙沼市中央公民館

i. 東日本大震災ワークショップ：19件

ii. 被災地および復興状況見学会

④ 秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催した。

日時：2015年11月13日(金)～14日(土)

場所：静岡県地震防災センター

査読論文発表：36件、一般論文ポスター発表：30件

⑤ 地域安全学会論文集・梗概集の刊行

・春季研究発表会において「地域安全学会梗概集No.36」を刊行した。

・秋季研究発表会において「地域安全学会論文集No.25(電子ジャーナル論文)、No.26(電子ジャーナル論文)、No.27(研究発表会論文)」を刊行した。

・秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集No.37」を刊行した。

地域安全学会論文集No.25、No. 26（電子ジャーナル論文）をホームページ上に公開した。

⑥ 地域安全学会論文賞・論文奨励賞・年間優秀論文賞の選出

・査読論文（電子ジャーナル）No.25(2015. 3)、査読論文（電子ジャーナル）No.26(2015. 7)および査読論文（研究発表会）No. 27(2015. 11)に掲載された合計45編の論文を対象として、2015年地域安全学会論文賞の審査を行った。審査会における審議の結果、本年は「該当なし」となった。

また、同論文を対象に年間優秀論文賞の震災を行い、以下の2編の論文の筆頭著者が選出された。

- i. 「地域データの乏しいアジアの洪水常襲地帯における簡便な洪水リスク評価手法に関する研究 -フィリピン共和国パンパンガ川流域を対象として-」（地域安全学会論文集No. 27）大原美保（土木研究所）
- ii. 「非線形写像法による航空レーザ測量データの幾何補正とそれに基づく2014年広島豪雨災害での崩壊土砂量の推定」（地域安全学会論文集No. 27）三浦弘之（広島大学）

⑦ 地域安全学会「技術賞」の選出

9回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、1件の応募登録があり、審査委員9人による厳正な審査の結果、本年度は該当者なしとなった。

⑧ 地域安全学会「優秀発表賞」の選出

第36回（2015年度）地域安全学会研究発表会（春季）において、57編の口頭発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った1名を授賞対象者として選出した。

- 「心理的要因に着目した建物火災避難動的評価－筑波大学学生宿舎を対象に－」土方孝将氏（筑波大学）

第37回（2015年度）地域安全学会研究発表会（秋季）において、30編の一般論文のポスター発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った2名を授賞対象者として選出した。

- 「平成27年9月に茨城県常総市で発生した洪水氾濫の地理的特徴」南雲直子氏（国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM））
- 「富士山噴火に伴う降灰荷重の評価と構造物へ及ぼす影響について」荻野和臣氏（㈱竹中工務店技術研究所）

⑨ ニュースレター発行とホームページ管理

2015年度はニュースレターNo.91－No.94の計4号を発行し、学会ホームページ上に掲載した。今後、学会の広報活動の柱としてホームページを位置づけ、引き続き内容の充実を図っていくこととした。

⑩ 会員メーリングリストによる情報提供

会員への迅速な情報発信を目指して、メールによる情報配信を行った。個人情報保護を考慮しつつ、効率的な会員サービスと会員管理を進めた。

⑪ 企画研究小委員会研究活動

企画研究小委員会において3テーマについて研究活動を実施した。

⑫ 東日本大震災関連活動

i. 宮城県気仙沼

宮城県気仙沼市において「東日本大震災連続ワークショップ2015 in 気仙沼」を開催した。

- ii. 東日本大震災特別委員会ワークショップにおいて「地域安全学会東日本大震災特別論文集No. 4」を刊行した。

⑬ 国際学術交流

2015年7月21日に米国コロラド州ボルダーにて、2016年10月にニュージーランドで開催する第4回国際都市防災会議の準備委員会に、本学会からは立木茂雄会長、牧紀男理事が参加した。また、11月28日に第3回アジア都市防災会議が韓国、高陽市のKINTEXにて開催され、本学会からは立木茂雄会長が基調講演を行い、小山倫史（関西大）が参加し、報告を行った。

⑭ 防災学協会連合組織への参加

「防災学協会連携体」という名称で正式に設立された。1月9日に開催された防災学術連携体の設立記念フォーラムに立木会長と加藤理事が参加した。毎年12月にフォーラムを開催すること、関連学会と国の防災担当者との面談の場を設けることが決議されたこと、防災学術連携体に幹事学会が設立されたことが報告された。

⑮ シンポジウム等の共催・参加

2015年7月2日～3日 日本学術会議（東京都港区六本木7-22-34）で開催された「安全工学シンポジウム-安心・安全な社会サイクル構築-」を共催した。このシンポジウムは、日本学術会議主催であり、安全工学に関する各分野における問題点提起、優れた研究成果の講演と技術交流により、安全工学および関連分野の発展に寄与することを目的とし、特別講演をはじめオーガナイズドセッション、パネルディスカッション、一般講演等が開催された。

⑯ 役員選挙の実施

2015年度新役員の実選を実施し、理事16名、監事1名を選出した。

⑰ 会員数および年会費納入（2016年3月末）

| | 会員数 | 2015年度 会費納入状況 |
|------|-----|------------------|
| 賛助会員 | 2 | 2 |
| 正会員 | 567 | 518 |
| 学生会員 | 86 | 57 |

2) 2015年度決算

決算に関して、井野監事、山崎監事および重川先生による監査を受けた。指摘された修正を取り入れた以下の決算報告に対して承認をいただいている。

【貸借対照表】

(単位：円)

| 資産の部 | | 負債及び正味財産の部 | |
|----------------|-----------|------------|-----------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 現金 | 122,353 | 未払金 | 782,449 |
| | | 預り金 | 7,656 |
| 普通預金 | 4,669,726 | 前受金 | 104,000 |
| (うち、国際交流事業用資金) | 43,440 | 仮受金 | 3,000 |
| | | 未払法人税等 | 76,000 |
| 【口座別内訳】 ゆうちょ銀行 | 74,642 | | |
| 振替預金 | 271,135 | | |
| 春季研究発表 | 1,085,197 | | |
| 秋季研究発表 | 898,690 | | |
| りそな査読論文 | 1,970,010 | | |
| りそなワークショップ | 370,052 | | |
| 商品 | 2,175,098 | | |
| 前払費用 | 38,260 | | |
| 未収会費 | 702,000 | | |
| 未収入金 | 0 | | |
| ソフトウェア | 142,296 | 負債合計 | 973,105 |
| | | その他一般正味財産 | 6,876,628 |
| | | 正味財産合計 | 6,876,628 |
| 資産合計 | 7,849,733 | 負債・正味財産合計 | 7,849,733 |

【損益計算書】

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------------|------------------|
| 【 I 収入】 | |
| 1 会費収入 | 4,320,000 |
| 2 寄付金収入 | 0 |
| 3 受取助成金 | 0 |
| 4 事業収入 | |
| ア 梗概集登載料 | 890,000 |
| イ 梗概集販売料 | 383,719 |
| ウ 論文集登載料 | 1,600,000 |
| エ 論文集査読料 | 640,000 |
| オ 論文集販売料 | 192,715 |
| カ DVD販売料 | 0 |
| 5 雑収入 | |
| ア 懇親会費 | 1,293,500 |
| イ 視察費 | 397,400 |
| ウ その他 | 31,700 |
| 6 受取利息 | 737 |
| 収入合計 | 9,749,771 |
| 【 II 支出】 | |
| 1 人件費 | 46,719 |
| 2 通信・広報費 | 260,783 |
| 3 印刷・編集費 | 1,351,343 |
| (印刷編集費棚卸対応分) | -249,471 |
| 4 会議費 | 177,960 |
| 5 旅費交通費 | 1,277,043 |
| 6 交際費 | 1,210,178 |
| 7 委託費 | 851,040 |
| 8 消耗品費 | 18,559 |
| 9 事務用品費 | 3,108 |
| 10 減価償却費 | 71,148 |
| 11 支払手数料 | 19,008 |
| 12 謝金 | 135,000 |
| 13 補助金 | 30,000 |
| 14 事務局費 | 1,296,000 |
| 15 租税公課 | 143 |
| 16 運営費 | 389,830 |
| 17 雑費等 | 928,806 |
| 支出合計 | 7,817,197 |
| 税引前当期利益 | 1,932,574 |
| 法人税等 | 76,000 |
| 当期利益 | 1,856,574 |
| 前期繰越利益金額 | 5,020,054 |
| 次期繰越利益金額 | 6,876,628 |

2015年度地域安全学会収支計算書
(2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | ①予算 | ②決算 | 比較①-② | 備 考 |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|---|
| 1.事務局・総務・総会・理事会 | | | | |
| 会費収入 | 3,723,000 | 3,907,000 | ▲ 184,000 | 正会員7,000円×514名 正会員5,000円×1名、学生会員2,000円×52名 賛助会員100,000円×2社 ※本収会費は除く |
| 小 計 | 3,723,000 | 3,907,000 | ▲ 184,000 | |
| 3.学術 | | | | |
| 1)事業収益 | | | | |
| ウ 論文集登録料 | 1,400,000 | 1,600,000 | ▲ 200,000 | 登録料 (2万円+5,000円/2ページ) ×55名 |
| エ 論文集査読料 | 700,000 | 640,000 | 60,000 | 査読料：1編10,000円×64名 |
| オ 論文集販売料 | 180,000 | 192,715 | ▲ 12,715 | 1冊：4,000円×47冊、送料 |
| カ DVD販売料 | 50,000 | 0 | 50,000 | 1枚：2万円 (会員価格) |
| 小 計 | 2,330,000 | 2,432,715 | ▲ 102,715 | |
| 5.春季研究発表会 | | | | |
| 1)事業収益 | | | | |
| ア 梗概集登録料 | 350,000 | 380,000 | ▲ 30,000 | 登録料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×53名 |
| イ 梗概集販売料 | 180,000 | 120,252 | 59,748 | 1冊：4,000円×26冊、DVD、CD12枚、送料 |
| 2)雑収入 | | | | |
| ア 懇親会費 | 300,000 | 720,000 | ▲ 420,000 | 参加費+宿泊費 ※クーポン券の返金分@3000×48名は差引) |
| イ 視察費 | 90,000 | 307,400 | ▲ 217,400 | 見学会参加費、昼食代 |
| 小 計 | 920,000 | 1,527,652 | ▲ 607,652 | |
| 6.秋季研究発表会 | | | | |
| 1)事業収益 | | | | |
| ア 梗概集登録料 | 360,000 | 300,000 | 60,000 | 登録料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×30名 |
| イ 梗概集販売料 | 170,000 | 177,342 | ▲ 7,342 | 1冊 4,000円×44冊、DVD、CD2枚、送料 |
| 2)雑収入 | | | | |
| ア 懇親会費 | 400,000 | 372,500 | 27,500 | 参加費@7,500×42 @2,500×23 |
| 小 計 | 930,000 | 849,842 | 80,158 | |
| 7.東日本大震災連続ワークショップ | | | | |
| 1)事業収益 | | | | |
| ア 梗概集登録料 | 170,000 | 210,000 | ▲ 40,000 | 登録料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×19名 |
| イ 梗概集販売料 | 60,000 | 87,425 | ▲ 27,425 | 1冊 3,000円又は2,000円、送料 |
| 2)雑収入 | | | | |
| ア 懇親会費 | 190,000 | 201,000 | ▲ 11,000 | 参加費(一般)6,000×32名 (学生)3,000×3名 |
| イ 視察費 | 140,000 | 90,000 | 50,000 | 3,000円×30名 |
| ウ その他 | 0 | 30,000 | ▲ 30,000 | 送迎代 1,500×20名 |
| 小 計 | 560,000 | 618,425 | ▲ 58,425 | |
| 8.受取利息 | 5,000 | 737 | 4,263 | |
| 収入合計 | 8,468,000 | 9,336,371 | ▲ 868,371 | |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | ①予算 | ②決算 | 比較①-② | 備 考 |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|---|
| 1.事務局・総務・総会・理事会 | | | | |
| 1) 通信費・広報費 | 190,000 | 168,363 | 21,637 | 切手、送料、電話代等、総会案内状發送代等 |
| 2) 印刷編集費 | 355,000 | 86,491 | 268,509 | コピー代、封筒印刷代、総会資料等印刷代等 |
| 3) 会議費 | 120,000 | 128,460 | ▲ 8,460 | 理事会会場代、監査会場代 |
| 4) 旅費交通費 | 860,000 | 498,026 | 361,974 | 大会等事務局交通費、宿泊費、理事会参加旅費等 |
| 5) 交際費 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 6) 委託費 | 1,620,000 | 1,620,000 | 0 | 会計事務所委託費月27,000円 H27年4月～H28年3月 事務局委託費月108,000円 H27年4月～H28年3月 |
| 7) 消耗品費 | 40,000 | 19,690 | 20,310 | 消耗品、10万円以下の備品、事務用文具等 |
| 8) 支払手数料 | 15,000 | 7,560 | 7,440 | 銀行振込手数料 |
| 9) 租税公課 | 70,000 | 143 | 69,857 | 源泉所得税、利子税、収入印紙代等 |
| 小 計 | 3,300,000 | 2,528,733 | 771,267 | |
| 2.広報 | | | | |
| 1) 委託費 | 131,000 | 24,192 | 106,808 | HP情報更新料・サーバ利用料、振込手数料 |
| 小 計 | 131,000 | 24,192 | 106,808 | |
| 3.学術 | | | | |
| 1) 人件費 | 0 | 5,119 | ▲ 5,119 | 論文データ等アップデート作業代 |
| 2) 通信費・広報費 | 70,000 | 84,480 | ▲ 14,480 | 論文發送料 |
| 3) 印刷編集費 | 900,000 | 821,880 | 78,120 | 論文集No.25.26.27 250部、コピー代 |
| 4) 会議費・旅費交通費等 | 510,000 | 365,040 | 144,960 | 学術委員会昼食代、飲食代等 |
| 5) 委託費 | 625,000 | 509,112 | 115,888 | 研究発表会論文システム運営費、振込手数料 |
| 6) 消耗品費 | 5,000 | 1,058 | 3,942 | 消耗品、10万円以下の備品 |
| 小 計 | 2,110,000 | 1,786,689 | 323,311 | |
| 4.国際交流 | | | | |
| 1) 運営費 | 110,000 | 0 | 110,000 | |
| 小 計 | 110,000 | 0 | 110,000 | |
| 5.春季研究発表会 | | | | |
| 1) 人件費 | 30,000 | 8,000 | 22,000 | アルバイト：3名 |
| 2) 通信費・広報費 | 2,000 | 3,156 | ▲ 1,156 | |
| 3) 印刷編集費 | 165,000 | 186,084 | ▲ 21,084 | 模範集No.36 (CD付) 80部、振込手数料 |
| 4) 旅費交通費 | 150,000 | 279,512 | ▲ 129,512 | 現地見学会バス、投資者旅費 |
| 5) 交際費 | 390,000 | 719,150 | ▲ 329,150 | 懇親会費用、宿泊費等 |
| 6) 消耗品費 | 10,000 | 0 | 10,000 | 賞状用紙、文房具代等 |
| 7) 謝金 | 120,000 | 105,000 | 15,000 | パネリスト、パフォーマー謝礼 |
| 小 計 | 867,000 | 1,300,902 | ▲ 433,902 | |
| 6.秋季研究発表会 | | | | |
| 1) 人件費 | 70,000 | 42,120 | 27,880 | アルバイト：3名 (交通費含む) |
| 2) 通信費・広報費 | 5,000 | 0 | 5,000 | 模範集送料、賞状送料 |
| 3) 印刷編集費 | 155,000 | 119,080 | 35,920 | 模範集No.37 (CD付) 80部、振込手数料 |
| 4) 交際費 | 400,000 | 368,442 | 31,558 | 懇親会会場代、料理代 |
| 5) 消耗品費 | 5,000 | 1,069 | 3,931 | 賞状、賞状用筒、備品 |
| 6) 謝金 | 30,000 | 30,000 | 0 | パフォーマー謝金 |
| 7) 運営費 | 260,000 | 267,600 | ▲ 7,600 | 昼食、飲み物代、パネル設置代 |
| 小 計 | 925,000 | 828,311 | 96,689 | |
| 7.東日本大震災連続7-クショツブ | | | | |
| 1) 通信費・広報費 | 5,000 | 4,784 | 216 | |
| 2) 印刷編集費 | 155,000 | 142,344 | 12,656 | 特別論文集No.4(CD付) 80部、振込手数料 |
| 3) 交際費 | 190,000 | 189,986 | 14 | 懇親会 |
| 4) 謝金 | 20,000 | 0 | 20,000 | 講師謝礼 |
| 5) 運営費 | 150,000 | 174,958 | ▲ 24,958 | 見学会 (バス代)、昼食代等 |
| 小 計 | 520,000 | 512,072 | 7,928 | |
| 8.その他事業 | | | | |
| 1) 旅費交通費 | 205,000 | 55,965 | 149,035 | 研究小委員会 (2つ) の旅費交通費、振込手数料 |
| 2) 補助等 | 172,000 | 30,000 | 142,000 | 安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術理携体会費、学会30周年記念事業準備費用 |
| 小 計 | 377,000 | 85,965 | 291,035 | |
| 支出合計 | 8,340,000 | 7,066,864 | 1,273,136 | |

| | |
|-------|-----------|
| 収入-支出 | 2,269,507 |
|-------|-----------|

なお、科目間の流用を認めます。
2016年6月3日
上記の通り収支決算を報告いたします。

地域安全学会

監事 井野 盛夫

監事 山崎 文雄

監事 重川 希志依



3) 2016年度役員の改選結果

① 改選対象役員

i. 理事

| | |
|--------|--------------------|
| 市古 太郎 | 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 |
| 糸井川栄一 | 筑波大学システム情報系 |
| 梅本 通孝 | 筑波大学システム情報系 |
| 大西 一嘉 | 神戸大学大学院工学研究科 |
| 大原 美保 | (国立研究開発法人) 土木研究所 |
| 岡田 成幸 | 北海道大学大学院工学研究院 |
| 柄谷 友香 | 名城大学都市情報学部 |
| 鋤田 泰子 | 神戸大学大学院工学研究科 |
| 田中 聡 | 常葉大学大学院環境防災研究科 |
| 西川 智 | 独立行政法人 水資源機構 |
| 秦 康範 | 山梨大学工学部 |
| 牧 紀男 | 京都大学防災研究所 |
| 松岡 昌志 | 東京工業大学大学院総合理工学研究科 |
| 宮野 道雄 | 大阪市立大学 大学運営本部 |
| 村上 ひとみ | 山口大学大学院理工学研究科 |
| 森 伸一郎 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |

ii. 監事

| | |
|-------|------------|
| 井野 盛夫 | 常葉大学環境防災学部 |
|-------|------------|

以上、理事16名、監事1名

② 選出役員

規程により以下の理事、監事を無投票で選出した。

i. 理事

| | |
|--------|---------------------|
| 生田 英輔# | 大阪市立大学大学院生活科学研究科 |
| 市古 太郎 | 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 |
| 糸井川栄一 | 筑波大学システム情報系 |
| 梅本 通孝 | 筑波大学システム情報系 |
| 大西 一嘉 | 神戸大学大学院工学研究科 |
| 大原 美保 | (国立研究開発法人) 土木研究所 |
| 岡田 成幸 | 北海道大学大学院工学研究院 |
| 柄谷 友香 | 名城大学都市情報学部 |
| 小山 真紀# | 岐阜大学流域圏科学研究センター |
| 田中 聡 | 常葉大学大学院環境防災研究科 |
| 西川 智 | (一般社団法人) 日本地域開発センター |
| 秦 康範 | 山梨大学工学部 |
| 牧 紀男 | 京都大学防災研究所 |
| 松岡 昌志 | 東京工業大学大学院総合理工学研究科 |
| 森 伸一郎 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |

ii. 監事

| | |
|--------|---------------|
| 宮野 道雄# | 大阪市立大学 大学運営本部 |
|--------|---------------|

以上、理事15名、監事1名 (#2016年度新規選出)

4) 2016年度事業計画

① 理事会の開催

2016年度は理事会を下記のとおり開催する。

- 第1回 2016年 6月3日 (土) 高知 (高知県立県民文化ホール)
- 第2回 2016年 7月16日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第3回 2016年 9月10日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第4回 2016年 11月5日 (土) 静岡 (静岡地震防災センター)
- 第5回 2017年1月21日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第6回 2017年 3月25日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)

② 総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催する。

日時：2016年6月3日 (金)～4日 (土)

場所：高知県県民文化ホール

(〒780-0870 高知県高知市 本町4丁目3-30)

③ 東日本大震災連続ワークショップ2016 in 石巻の開催

日時：2016年8月5日 (金)～6日 (土)

場所：岩手県石巻市

- ・市の関係者による基調講演、研究発表会
- ・現地見学会、ディスカッション

④ 秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催する

日時：2016年11月4日 (金)～5日 (土)

場所：静岡地震防災センター

⑤ 地域安全学会論文集・梗概集の刊行

秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 38」を刊行し、優秀発表賞を選出する。

地域安全学会論文集の論文募集は年2回とし、今年度は地域安全学会論文集 No. 29、同 No. 30 (電子ジャーナル論文) の論文を募集する。

秋季研究発表会において「地域安全学会論文集 No. 28、No. 29」を刊行し、地域安全学会論文奨励賞を選出する。

地域安全学会論文集 No. 30 (電子ジャーナル論文) をホームページ上で公開する。

地域安全学会論文集 (No. 28、No. 29) を対象に地域安全学会論文賞および年間優秀論文賞を選出する。

⑥ 広報活動の強化と会員管理

サービスの向上を目指して、会員へのメールによる各種情報配信、ホームページによる情報提供、印刷物による情報発信について、各々の機能分化した情報提供を実施する。

⑦ 地域安全学会技術賞の選出

表彰委員会において第9回地域安全学会技術賞の選考を行う。

⑧ 企画研究小委員会活動

企画研究小委員会において3テーマについて研究活動を実施する。

⑨ 国際学術交流

2016年10月18日から21日までニュージーランドのウェリントン市で開催される第4回国際都市防災会議に、本学会からも多数の会員が参加する予定である。

⑩ 役員選挙の実施

2017年度新役員選挙を実施し、理事15名以内、監事2名以内を選出する。

⑪ 東日本大震災に関する支援・研究活動の推進

東日本大震災特別委員会による被災地支援・研究活動の実施、東日本大震災学協会連絡協議会への参画を行う。

⑫ 30周年に向けた企画

11月3日(木)に、東京大学生産研究所コンベンションホールにおいて、30周年記念事業として、地域安全学会のこれまでの活動と今後の活動の方向性を議論するシンポジウムを開催する。

⑬ 文部科学省リスクコミュニケーションのモデル事業への応募

平成28年度科学技術人材育成費補助事業「リスクコミュニケーションのモデル形成事業(学協会型)への公募に参画し、採択されれば5年間にわたり自然災害分野におけるリスクコミュニケーションの諸課題の実践的な研究を学会として先導する。

5) 2016年度予算

2016年度地域安全学会予算

(2016年4月1日～2017年3月31日)

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | 2016年予算 | 2015決算 | 備 考 |
|-------------------|------------|-----------|--|
| 1.会費収入 | 3,823,400 | 3,907,000 | 正会員:7,000円×495名(550名×90%) 学生会員:2,000円×79名(88名×90%) 賛助会員100,000円×2社 |
| 2.寄付金収入 | 0 | 0 | |
| 3.受取助成金等 | 10,000,000 | 0 | |
| 4.春季研究発表会 | | | |
| 1)事業収益 | | | |
| ア 梗概集登載料 | 300,000 | 380,000 | 登載料(ﾊﾞｰｼﾞ数対応5,000円/2ﾊﾞｰｼﾞ)×30名 |
| イ 梗概集販売料 | 120,000 | 118,952 | 1冊:4,000円×30部 |
| 2)雑収入 | | | |
| ア 懇親会費 | 300,000 | 720,000 | 懇親会参加費:6,000円×45名、3,000円×10名 |
| イ 視察費 | 90,000 | 307,400 | 見学会参加費:3,000円×30名 |
| ウ その他 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 810,000 | 1,526,352 | |
| 5.秋季研究発表会 | | | |
| 1)事業収益 | | | |
| ア 梗概集登載料 | 300,000 | 300,000 | 登載料(ﾊﾞｰｼﾞ数対応5,000円/2ﾊﾞｰｼﾞ)×30名 |
| イ 梗概集販売料 | 160,000 | 177,342 | 1冊:4,000円×40部 |
| 2)雑収入 | | | |
| ア 懇親会費 | 387,500 | 372,500 | 懇親会参加費:7,500円×45名、2,500円×20名 |
| イ 視察費 | 0 | 0 | |
| ウ その他 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 847,500 | 849,842 | |
| 6.東日本大震災連続ワークショップ | | | |
| 1)事業収益 | | | |
| ア 梗概集登載料 | 200,000 | 210,000 | 登載料(ﾊﾞｰｼﾞ数対応5,000円/2ﾊﾞｰｼﾞ)×20名 |
| イ 梗概集販売料 | 90,000 | 87,425 | 1冊:3,000円×30部 |
| 2)雑収入 | | | |
| ア 懇親会費 | 195,000 | 201,000 | 懇親会参加費:6,000円×30名、3,000円×5名 |
| イ 視察費 | 90,000 | 90,000 | 見学会参加費:3,000円×30名 |
| ウ その他 | 0 | 30,000 | |
| 小 計 | 575,000 | 618,425 | |
| 7.学術 | | | |
| 1)事業収益 | | | |
| ウ 論文集登載料 | 1,500,000 | 1,600,000 | 登載料(2万円+5,000円/2ﾊﾞｰｼﾞ)×60名 |
| エ 論文集査読料 | 600,000 | 640,000 | 査読料:1編10,000円×60名 |
| オ 論文集販売料 | 160,000 | 192,715 | 1冊:4,000円×40部 |
| カ DVD販売料 | 20,000 | 0 | 1枚:2万円(会員価格)×1枚 |
| 小 計 | 2,280,000 | 2,432,715 | |
| 8.受取利息 | 1,000 | 737 | |
| 収入合計 | 18,336,900 | 9,335,071 | |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | ①予算 | ②決算 | 備 考 |
|------------|-----------|-----------|--|
| 1.事務局・総務 | | | |
| 2) 通信費・広報費 | 80,000 | 77,935 | 切手、送料、電話代等 |
| 3) 印刷編集費 | 5,000 | 27,540 | コピー代、封筒印刷代 |
| 4) 会議費 | 10,000 | 2,460 | 監査会場代 |
| 5) 旅費交通費 | 200,000 | 169,990 | 監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費 |
| 6) 交際費 | 30,000 | 0 | |
| 7) 委託費 | 324,000 | 324,000 | 委託費月27,000円 H27年4月～H28年3月 |
| 8) 消耗品費 | 30,000 | 16,432 | 消耗品、10万円以下の備品 |
| 9) 事務用品費 | 10,000 | 3,108 | 事務用文具等 |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 3,888 | 銀行振込手数料 |
| 12) 謝金 | 0 | 0 | |
| 14) 事務局費 | 1,728,000 | 1,296,000 | 委託費月144,000円 H27年4月～H28年3月 |
| 15) 租税公課 | 10,000 | 143 | 源泉所得税、利子税、収入印紙代等 |
| 16) 運営費 | 0 | 0 | |
| 17) 雑費等 | 0 | 150 | |
| 99) 予備費 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 2,432,000 | 1,921,646 | |
| 2.広報 | | | |
| 7) 委託費 | 30,000 | 23,760 | HP情報更新料・サーバ利用料 |
| 11) 支払手数料 | 1,000 | 432 | 銀行振込手数料 |
| 小 計 | 31,000 | 24,192 | |
| 3.総会・理事会 | | | |
| 1) 人件費 | | | |
| ア アルバイト給料 | 0 | 0 | |
| 2) 通信費・広報費 | 90,000 | 90,428 | 総会の案内資料印刷・発送代 |
| 3) 印刷編集費 | 60,000 | 58,951 | 案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷・メダル作成代 |
| 4) 会議費 | 130,000 | 126,000 | 理事会 会場費 |
| 5) 旅費交通費 | 400,000 | 328,036 | 理事会 旅費交通費 |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 3,672 | 銀行振込手数料 |
| 12) 謝金 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 685,000 | 607,087 | |
| 4.学術 | | | |
| 1) 人件費 | | | |
| ア アルバイト給料 | 0 | 5,119 | 論文データ等アップデート作業代 |
| 2) 通信費・広報費 | 90,000 | 84,480 | 論文発送料 |
| 3) 印刷編集費 | 830,000 | 821,880 | 論文集No.25.26.27 印刷料、コピー代 |
| 4) 会議費 | 50,000 | 49,500 | 学術委員会昼食代、飲食代 |
| 5) 旅費交通費 | 400,000 | 315,540 | 学術委員会参加交通費 |
| 7) 委託費 | 518,400 | 503,280 | 研究発表会論文システム運営費 =研：318,600+電：199,800 |
| 8) 消耗品費 | 5,000 | 1,058 | 消耗品、10万円以下の備品 |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 5,832 | 銀行振込手数料 |
| 16) 運営費 | 0 | 0 | |
| 17) 雑費等 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 1,898,400 | 1,786,689 | |
| 5.国際交流 | | | |
| 11) 支払手数料 | 10,000 | 0 | |
| 13) 補助等 | 0 | 0 | |
| 16) 運営費 | 100,000 | 0 | |
| 小 計 | 110,000 | 0 | |

| 科目 | ①予算 | ②決算 | 備 考 |
|--------------------------|------------|-----------|---|
| 6.春季研究発表会 | | | |
| 1) 人件費 | | | |
| ア アルバイト給料 | 10,000 | 8,000 | |
| 2) 通信費・広報費 | 3,000 | 3,156 | |
| 3) 印刷編集費 | 180,000 | 184,140 | 梗概集No.36 |
| 4) 会議費 | 0 | 0 | |
| 5) 旅費交通費 | 280,000 | 279,512 | 現地見学会バス、投資者旅費 |
| 6) 交際費 | 300,000 | 651,750 | 懇親会費用 |
| 8) 消耗品費 | 5,000 | 0 | 賞状用紙他 |
| 9) 事務用品費 | 5,000 | 0 | 文房具代 |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 1,944 | 銀行振込手数料 |
| 12) 謝金 | 100,000 | 105,000 | パネリスト、パフォーマー謝礼 |
| 16) 運営費 | 90,000 | 67,400 | 現地見学会費用（昼食代含む） |
| 17) 雑費等 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 978,000 | 1,300,902 | |
| 7.秋季研究発表会 | | | |
| 1) 人件費 | | | |
| ア アルバイト給料 | 40,000 | 33,600 | |
| 2) 通信費・広報費 | 5,000 | 0 | 梗概集送料、賞状送付料 |
| 3) 印刷編集費 | 120,000 | 117,784 | 梗概集No.37 |
| 4) 会議費 | 0 | 0 | |
| 5) 旅費交通費 | 30,000 | 8,520 | アルバイト交通費 |
| 6) 交際費 | 387,500 | 368,442 | 懇親会会場代、料理代 |
| 8) 消耗品費 | 5,000 | 1,069 | 賞状、賞状用筒、備品 |
| 9) 事務用品費 | 0 | 0 | |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 1,296 | |
| 12) 謝金 | 30,000 | 30,000 | パフォーマー謝金 |
| 16) 運営費 | 260,000 | 267,600 | 昼食、飲み物代、パネル設置代 |
| 17) 雑費等 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 882,500 | 828,311 | |
| 8.東日本大震災連続ワークショップ | | | |
| 2) 通信費・広報費 | 5,000 | 4,784 | |
| 3) 印刷編集費 | 140,000 | 141,048 | 特別論文集No.4(CD付) 80部 |
| 5) 旅費交通費 | 120,000 | 120,128 | 現地見学会等バス代 |
| 6) 交際費 | 195,000 | 189,986 | 懇親会 |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 1,296 | 銀行振込手数料 |
| 12) 謝金 | 100,000 | 0 | 講師謝礼 |
| 16) 運営費 | 90,000 | 54,830 | 見学会、昼食代等 |
| 17) 雑費等 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 655,000 | 512,072 | |
| 9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会 | | | |
| 16) 運営費 | 10,000,000 | 0 | |
| 小 計 | 10,000,000 | 0 | |
| 10.その他事業 | | | |
| 5) 旅費交通費 | 200,000 | 55,317 | 研究小委員会（2つ）の旅費交通費 |
| 6) 交際費 | 0 | 0 | |
| 11) 支払手数料 | 5,000 | 648 | 銀行振込手数料 |
| 13) 補助等 | 30,000 | 30,000 | 安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費 |
| 16) 運営費 | 1,100,000 | 0 | 学会30周年記念事業運用費 会場費+印刷費+その他雑費：1,000,000円 安全・安心若手研究会の運営費：100,000円 |
| 17) 雑費等 | 0 | 0 | |
| 小 計 | 1,335,000 | 85,965 | |
| 支出合計 | 19,006,900 | 7,066,864 | |

| | |
|-------|----------|
| 収入-支出 | -670,000 |
|-------|----------|

なお、科目間の流用を認めます。

(2) 2015 年地域安全学会論文賞・年間優秀論文賞・論文奨励賞の授与式

地域安全学会論文賞、年間優秀論文賞、論文奨励賞の授与式が総会会場で行われました。授与式では、立木会長より受賞者に賞状と記念メダルが授与されました。

2015 年は、地域安全学会論文集 No. 25、No. 26、No. 27 に計 48 編の論文が掲載されました。なお、年間優秀論文賞は、一年間に地域安全学会論文集に掲載された査読論文の中から最も優秀な論文を選定しこれを表彰するものです。また、論文奨励賞は、研究発表会での発表論文のうち、筆頭著者でかつ研究発表会で発表を行った者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある原則として 40 歳未満の者を対象とし、当時の発表や質疑の内容を加味した審査によって選考されます。

審査の結果、以下の方が論文賞、年間優秀論文賞、論文奨励賞の受賞者として選ばれました。

(学術委員会)

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文賞 ◆◆◆◆◆

審査会における審議の結果、今年「該当なし」と決定いたしました。

◆◆◆◆◆ 地域安全学会年間優秀論文賞 ◆◆◆◆◆

・大原美保（土木研究所）「地域データの乏しいアジアの洪水常襲地帯における簡便な洪水リスク評価手法に関する研究 -フィリピン共和国パンパンガ川流域を対象として-」（地域安全学会論文集 No. 27）

・三浦弘之（広島大学）

「非線形写像法による航空レーザ測量データの幾何補正とそれに基づく 2014 年広島豪雨災害での崩壊土砂量の推定」（地域安全学会論文集 No. 27）

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文奨励賞 ◆◆◆◆◆

・菅野拓（公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター／
研究員）「東日本大震災の仮設住宅入居者の社会経済状況の変化と災害法制の適合性
の検討 -被災 1・3 年後の仙台市みなし仮設住宅入居世帯調査の比較から-」（地域安
全学会論文集 No. 27）

・鈴木進吾（国立研究開発法人防災科学技術研究所レジリエント防災・減災研究推進
センター／主幹研究員）「WebGIS サービスの連携による簡易型地震災害想定 Web アプ
リケーションの開発」（地域安全学会論文集 No. 27）



大原美保さん



三浦弘之さん



菅野拓さん



鈴木進吾さん

写真 立木茂雄学会長から受賞者への賞状の授与

(3) 第38回地域安全学会研究発表会（春季）における優秀発表賞について

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成24年度に創設し、表彰を行っております。平成28年6月3日に高知県高知市で実施された第38回（2016年度）地域安全学会研究発表会（春季）におきましては、57編の口頭発表が行われました。そのうち事前に応募登録された方を選考対象とすることといたしました。

今回は24編の応募登録があり、下記の審査要領に従って採点を実施しました。採点終了後に優秀発表賞審査会を開催して厳正なる選考を行いました。審議の結果、以下の方を授賞対象者として選出いたしましたことをここに報告いたします。

・安藤菜々（摂南大学大学院理工学研究科社会開発工学専攻）

「福島県立医科大学附属病院における災害研修プログラムの実施と検証－事務系職と看護職の連携－」

・湯浅恭史（徳島大学環境防災研究センター）

「家庭版災害時アクションカードを活用した津波避難訓練の取り組み」

なお、この選考結果につきましては、研究発表会当日に行われた懇親会で発表しました。表彰式につきましては、11月の秋季大会懇親会で行う予定です。

今後の研究発表会におきましても、引き続き優秀発表賞の選考を行いますので、奮って投稿・発表していただきますようお願いいたします。

「地域安全学会優秀発表賞」審査要領（平成24年5月26日制定）（平成28年3月26日改定）

1. 授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

2. 審査方法

- 1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長、および別途指名される採点委員から構成される優秀発表賞審査会が審査を行う。
- 2) 採点委員は、研究発表（口頭発表もしくはポスター発表）時に、評価シートを用いて各発表者の採点を行う。
- 3) 優秀発表賞審査会では、すべての採点委員により提出された評価シートに基づいて審議を行い、受賞者を決定する。
- 4) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

- 1) 賞は「地域安全学会優秀発表賞」と称する。
- 2) 「地域安全学優秀発表賞」の受賞者には、賞状を贈呈する。
- 3) 受賞者発表および表彰式については実施細目に定める。

5. 第 39 回(2016 年度)研究発表会(秋季)査読論文の審査状況報告

第 39 回(2016 年度)研究発表会(秋季)査読論文の募集は、5 月 13 日に締め切られ、計 53 編が投稿され、形式審査の結果計 52 編が受理されました。現在、7 月中旬の学術委員会の審議に基づく第 1 次の審査結果がお手元に届いていることと思います。修正依頼を行った後の論文に対して、9 月中旬の学術委員会を経て、9 月中旬頃に最終的な登載の可否を通知いたします。採択された研究発表会(秋季)査読論文は全て、11 月の研究発表会での発表が義務付けられています。また、これらの論文に対して、今年も論文奨励賞の選考を発表会の場でおこないますので、発表にも十分な準備をお願いいたします。また、論文賞につきましては、3 月に発行された電子ジャーナル査読論文とあわせて選考をおこないます。さらにこれら 1 年間の査読論文を対象とした年間優秀論文賞を、論文賞とあわせて選考をおこないます。

(学術委員会)

6. 寄稿

記録する－災害報道における記者の仕事

読売新聞神戸総局長 川西勝

1. はじめに

新聞記者になって初めて直面した大災害の取材現場が 1995 年の阪神・淡路大震災だった。当時、たまたま神戸の支局に勤務していたという理由だけで、震災取材の渦中に放り込まれることになった。

今となっては恥ずべきことだが、神戸で大きな地震が起こるとは思ってみたこともなかった。地震や災害に関する専門的な知識はゼロだったし、備えの大切さを訴えるような防災記事を書いたこともなかった。何の蓄積もないままに、大量の記事を書き続けることになった。付け焼き刃のわか勉強で書くのだから、自分でも納得のいかない記事が多かった。それでも、立ち止まって勉強をしている時間的余裕はなく、ひたすら書くしかなかった。

以来、災害報道をライフワークと考え、自分なりに勉強を続けた。いくつもの災害現場を取材したが、そのたびに心をよぎったのは、阪神・淡路大震災の時には記者として十分に納得のいく活動はできなかったという後ろめたさである。私にとって、災害報道とは常に、引け目のようなネガティブな感情を想記させるものである。

災害の現場に立つ記者に求められるのは、記録することである。ただ、一口に「記録する」と言っても、そこには様々な状況や感情が付随する。本稿では、災害現場で「記録する」ことに伴って起こる様々な事態や、「記録する」ことを巡って記者の心に起きる感情などについて、私なりに感じていることを論じてみたいと思う。

2. 記録すること

(1) 海に向かう記者たち

門田（2014）は、2011 年 3 月の東日本大震災に立ち向かった福島民友新聞の記者群像を描いた力作ノンフィクションである。自然の猛威に翻弄され、同僚から犠牲者までも出しながら格闘する記者たちの姿には、同じ職業に就くものとして、心を強く揺さぶられる思いがする。

とりわけ強い印象を残すのは、「木口」という記者の体験だ。

迫力ある津波の写真を撮ろうと、愛車で海に向かう木口記者の目前に突然、大津波が出現する。その時、津波から逃れようと、子どもを抱きながら必死で走ってくるおじいさんに気付いた木口記者は反射的にカメラに手を伸ばす。実際にはカメラを手に取ることはできず、車を切り返して津波から危機一髪で脱出するが、老人が波にのまれる瞬間をバックミラーで見てしまう。

「なぜ、カメラに手をかけようとしたんだ。なぜ、最初から助けようとしなかったんだ。おまえはなぜ、カメラなんか手を伸ばそうとしたんだ。おまえは、なんで助けなかったんだ……。」

津波から逃げながら、木口の頭の中を、そんな言葉がぐるぐるとまわっていた。

おまえは何だ！ おまえはなぜ人を助けないのか！ おまえは記者である前に『人間』ではないのか！」

私には、とっさにカメラを取ろうとした記者の行動は理解できる。新聞記者は駆け出しの頃から、決定的瞬間を逃さず撮影することがいかに大事か、徹底して教え込まれる。記事は後になってから、書き直すことができる。しかし、写真はその一瞬を逃したら、同じ好機は二度と巡ってこない。若手を指導する立場になった今も、記者たちには「現場に行ったらまず写真だ。チャンスを絶対に逃すな」と口やかましく教えている。決定的瞬間を押さえたいというのは、記者にとって欠かせない行動原理である。だが、現場へ猪突猛進する記者を巡っては、次のような問題がつきまとう。

(2) 心理的葛藤

一つは、先に引用した木口記者が経験したような心理的葛藤である。「決定的瞬間」とは、人々が危難に直面している現場であることが多い。その中で記者は、取材を優先すべきか、人命救助を手伝うべきか等々、人間としてどう行動すべきか、という問いを突きつけられることになる。

私自身の体験を振り返ってみれば、例えば、阪神・淡路大震災の記憶がよみがえる。損壊した病院に閉じ込められた患者たちを救出する活動取材した時には、無力感や逡巡、いたたまれなさが交ぜになった感覚を持った。目の前で、命を救う活動が展開されているにもかかわらず、自分にはカメラを構え、シャッターを押す以外にできることは何もない。新聞記者はふだん、取材に忙しく走り回っていて、「新聞記者とは何か」などと考える暇もない。しかし、こうした場面では根源的な問いを不意に突きつけられてしまうのである。

阪神・淡路大震災で報道に携わった記者、編集者 36 人にインタビューした小城（1997）は、多くの記者たちが取材か救助かという狭間で葛藤したことを明らかにしている。その結果、取材を選んだ記者もいれば、救助を手伝った記者もいる。取材を選んだ記者は「我々は『伝えなければならない』というのが仕事だから」、救助を選んだ記者は「目の前で『助けてくれ』という人がいるなら、自分にできる最低限の救助活動は絶対にしなければならない」などと述べている。

撮るべきか、救うべきか。正解など、ないだろう。その場に直面した人間が、主体的に考えるしかない。ただ、その場になってから考えるだけでなく、記者ならば、こういう場面に立ち会うことが十分にありうることを想定して、平時に、自分なりの考え方について思いを巡らせておくことも必要ではないかと思う。

非常時には、どちらの行動を取るべきか、選択を迫られ、心理的な葛藤に苦しむ場面が次々と現れてくる。このような心理的葛藤を伴う意思決定の場面を設定して、防災力の強化に生かすことを企図して開発された災害対応ゲームに「クロスロード」がある。そこでは、葛藤すること事態を肯定的にとらえる考え方が、背景に据えられている。開発者の矢守ら（2005）は「これらの状況を苦境にとらえるのではなく、現状に対するまったく新たな理解や意外な解決法を案出し、社会の中に新しい形の実践を生み出す母体としてとらえようという考え方」としている。

取材か救助か、という葛藤にしても、平時に突き詰めて考えてみることで、記者はどうあるべきかという根源的な問題について、掘り下げて思考する契機となるだろう。その結果、これまでは意識して考えてみたことがなかった記者像を自分の中に発見するかもしれない。

実際に災害に直面した時には、平時に考えていたのとは別の選択をするかもしれない。それでも構わない。平時に考えておいたこと自体に意味があるのである。現場では、平時に考えておいたことの上に立って判断することで、より重層的な決断をすることが可能になるであろう。そこには、付け焼き刃の直感的な思考だけでは生み出せない気づきがあるはずである。

(3) 安全確保

現場へ猪突猛進する記者を巡るもう一つの課題は、記者が危険に巻き込まれるという、より切迫した直截的な問題である。東日本大震災が起きた時、木口記者と同様に、多くの記者が迫力ある津波の写真を撮ろうと、海へ向かった。ある記者はこう回顧している。

「経験したことがない揺れの後、目にした光景は、これまで想像していた『津波』という言葉からはほど遠かった。最初、ちよろちよろと岸壁を乗り越えたかと思うと、すぐさま高さ2メートルほどの白波が猛スピードで襲来。魚市場を破壊し、車もろとも一気に流し去った。

次から次へと押し寄せる海水は容赦ない。避難する際、どこまで高台に上っても逃げられない感覚に襲われた。人生で初めて死を覚悟したのもこの時だ。」（読売新聞、2015）

1991年の長崎県・雲仙普賢岳火砕流では、報道関係者20人が死亡した。うち4人は報道機関のタクシー運転手である。2006年の台風13号による豪雨災害では、広島市内で冠水現場に車で向かった27歳の記者が行方不明となり、車が河川に転落しているのが見つかった。記者は行方不明のまま、後に特別失踪宣告が確定し、戸籍上、死亡の手続きが取られている。

災害取材で記者の安全確保が優先されるのは、言うまでもない。日本民間放送連盟（1991）によれば、雲仙普賢岳の悲劇を受けて、加盟各社から聞き取り調査をした結果、「全く無知だった。火砕流は、風の強い日のグラウンドの土煙くらいにしか考えていなかった」「みんな土石流の話ばかりで、火砕流についての知識不足のまま最前線にいた。退避用の一斉指令の無線など連絡方法も不備だった」といった問題点が明らかになった。

こうした反省を受けて、各報道機関では、災害時の安全確保に向けて、災害に関する知識を習得させるなどの記者教育、研修を実施してきたはずである。それでも、東日本大震災では、多くの記者が海に向かった。決定的現場へ一刻も早く行きたいというのが、記者の行動原理であることは確かだ。それを抑えて、まずは身の安全を確保せよ、という原則を徹底させるには、どうしたらいいのか。悩みはつきない。

3. 記録されること

ここまでは「記録する」側の記者について書いてきた。記録が行われる時、当然そこには「記録される」者も存在する。記録される側についても、思いを致さなければならない。

「ベトナムの少女」として知られる有名な戦争報道写真がある。炸裂したナパーム弾で衣服を焼かれ、大やけどを負いながら、全裸の少女が泣き叫びながらカメラマンのいる方へ走ってくる。見る者に戦争の狂気を突きつけ、根源的な恐怖や忌まわしさをかき立ててくる1枚である。

まず、記録する側に思いをはせれば、シャッターを押したカメラマンには「決定的瞬間」をものにしたという高揚感があつたであろうことが想像される。チョン（2001）によれば、この写真を撮影したベトナム人カメラマン、ニック・ウットは、スクープ写真の撮影に成功したことを確信し、サイゴンのオフィスへすぐに戻って現像、焼き付け、送信をして世界に発信したいという気持ちに駆られたという。その一方で、目の前には大やけどを負って苦しむ少女がいる。

「少女を救う人道的な行為をすることと、プロらしく仕事に徹して一目散にサイゴンへ戻ることーニックの心はこの二つのあいだで揺れ動き、千々に乱れた。時間の猶予はなくなっていく。」

同書によれば、ニック・ウットは葛藤の末に救命活動を優先することを決断し、自分の車に少女を乗せて米軍系の救急病院に搬送する。緊急手術を受けた少女は一命を取り留める。ここでも、先に述べた「取材か救助か」という葛藤が見て取れる。

それでは、記録される側はどうか。「決定的瞬間」を記録された被写体の人生も大きく変わったという。この少女、キム・フックは当時、9歳。ベトナム戦争終結への転機になったとも言われる1枚の写真に刻印されたことで、その後はどこへ行っても「あの写真の少女」としてしか見られないことに苦しめられる。戦争終結後は、ベトナム共産党政権がキム・フックを「反米の象徴」として、政治的なプロパガンダの道具に使い、自由に活動することを許さなくなっていく。

こうした暮らしに希望を見いだせなくなったキム・フックは大学生の時、カナダへ亡命した。50歳を超えた今、カナダでThe KIM Foundation Internationalという財団を運営し、戦争や紛争で傷ついた子どもたちを支援する平和活動を行っているという。

「自分が苦しんできたことの実態が、いまのわたしにはわかる。そう、あのナパームの炎のなかから生きて出てくることのできた理由を、フックは悟ったのだった—戦争の恐怖の生きた象徴になるためだったのだ。

あの写真がわたしを歴史のひと齣に封じ込めた。あの歴史のひと齣はわたししかいない。戦争の犠牲者は確かにわたしひとりではないけれど、ほかの人たちには証拠がない。わたしには写真があり、そしてこの体があるのだ。」

あの瞬間を記録されたことで、世界は戦争の狂気を知った。だが、被写体となった当事者がその意義を冷静に受け止められるようになるまでには、数十年の時間を要した。1枚の写真が持つ重みを思う。

4. 終わりに

こうした事例を踏まえて思うのは、記者の仕事とは、取材対象者に対して、大きな負担や迷惑をかけずには成り立たないという事実の重さである。

大きな災害や事故の現場で取材対象となるのは、つらく苦しい思いをしている人たちばかりだ。そうした人たちに時間を割いてもらい、苦しい胸のうちを語っていただかなくてはならない。その取材を基に書かれた記事や作られた番組は、社会一般の読者・視聴者に届けるために発信されるのであって、当事者を直接、助ける役に立つわけではない。

それでも、ここで記録をしておかなければ、時間の流れの中で忘却されてしまう。迷惑をおかけすることは重々承知したうえで、記録して社会に発信することの意味に理解を求め、協力をお願いするしかない。記者の仕事には、申し訳なさや後ろめたさのようなネガティブな感情が必ず伴うものだし、それを自覚して、冷や汗や脂汗を流し、もがき苦しみながら、取材対象者に接していくべきものであると思う。

タイム誌の契約カメラマンなどとして、レバノン、アフガニスタン、チェチェンなど世界中の戦争や紛争の現場で活動を続ける報道写真家のジェームズ・ナクトウェイは、ネガティブな感情を直視しつつ報道に取り組む姿勢を、次のように語っている。

「写真家として最も辛いのは、他の誰かの悲劇で得をしていると感じることだ。この考えは常に私につきまとう。個人的な野心を優先すれば、魂を売り渡すことになる。人を思いやれば人から受け入れられる。その心があれば私は私を受け入れられる。」(メディア・スーツ, 2003)

災害報道では、被災者に「寄り添う」視点が大切と説かれることがよくあるが、個人的には「寄り添う」報道というとらえ方には、違和感を覚える。「寄り添う」関係とは、相手が自分に対して好ましい感情を持っている場合に「寄り添ってほしい」という思いが芽生えるのだと思う。しかし、被災者

にとって記者は、まずは迷惑な存在として登場するはずである。そのことをよく自覚する必要がある。そうした壁を乗り越えて、被災者との間に人間的な強いつながりが生まれた場合には「寄り添う」関係に発展することもあるだろう。だが、それはあくまでも結果であって、被災者と接する時に、初めから「寄り添う」関係を目指していこうと考えるのは、独りよがりな思い込みのように、私には感じられる。

冒頭に紹介した「記者たちは海に向かった」で過酷な体験をした木口記者は、震災から 2 年半後、次のように語ったという。

「あの三月十一日、十二日の二日間、僕は純粋に、新聞記者として動いたと思うんですよ。あの時、会社と連絡がとれなくなっていました。ということは、会社の仕事としてではなく、記録として、誰かが、この震災の被害を書き残さなければいけなかった。それは、会社に記事として送ることができるとか、できないとか、そんなことではなく、ただ純粋な気持ちだけでやったことを、思い出します。紙面に反映されるかどうかではなく、純粋に“記録者”として動いた二日間だったんじゃないか、と思うんです。会社というものも超えて、あの二日間、記録者として特化して、あそこにいたのではないかと。そして、自分には、それしかできなかったのではないかと思います」

記録する行為には、数多くの模索や逡巡、心の痛みがつきまとう。それでも、災害の現場で記者たちが記録する活動が、終わることはない。

(了)

参照文献

- 門田隆将 (2014) : 「記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞」, KADOKAWA
小城英子 (1997) : 「阪神大震災とマスコミ報道の功罪 記者たちの見た大震災」, 明石書店
矢守克也・吉川肇子・網代剛 (2005) : 「防災ゲームで学ぶリスクコミュニケーション クロスロードへの招待」, ナカニシヤ出版
読売新聞 (2015) : 4月9日朝刊「読売新聞 50000号 あの日 見た 書いた (特集)」
日本民間放送連盟 (1991) : 「雲仙・普賢岳の警告」
デニス・チョン (2001) : 「ベトナムの少女 世界で最も有名な戦争写真が導いた運命」(押田由起訳), 文春文庫
メディア・スーツ (2003) : ドキュメンタリー映画「戦場のフォトグラファー ジェームズ・ナクトウェイの世界」(2001 スイス) プレスシート



地域安全学会ニューズレター
第96号 2016年8月

地域安全学会事務局
〒102-0085 東京都千代田区六番町 11-3
エクサス六番町 401
株式会社サイエンスクラフト内
電話・FAX : 03-3261-6199
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。